

# 1. 構想の概要

**【構想の名称】**

「心・技・体」三位一体による世界で活躍する革新的ICT人材の輩出

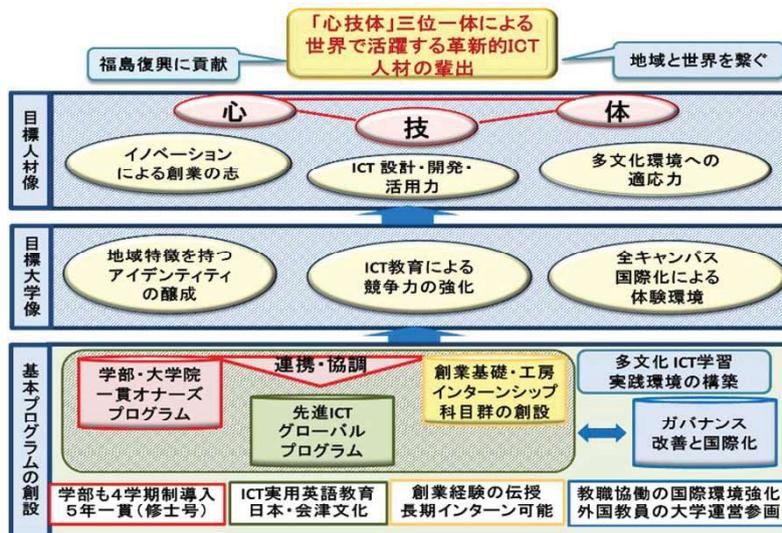
**【SGUの取組を通じて目指す大学の将来像】**

建学以来20年以上にわたるグローバル教育の実践を踏まえ、我が国のICT分野での先駆的大学として、グローバル教育を持続的に牽引する環境の確立を目指すとともに、以下に掲げる3つのコンセプトに基づき、地域企業やベンチャーに世界レベルで活躍できる優秀な人材を輩出することにより、地域産業の振興および震災からの復興に貢献する。また、国際的なICT分野において海外との拠点機能を強化し、地域と世界とを結びつけるゲートウェイの役割を果たす。

- (1)「心」: ICT イノベーションによる世界へはばたく創業の志を確立する
- (2)「技」: 競争力の強い ICT 設計・開発・活用力を養成する
- (3)「体」: 多文化環境における適応・調整・統合力を育成する

**【構想の概要】**

本事業では、世界で活躍する革新的ICT人材の輩出を目的に、「心・技・体」三位一体のコンセプトのもと多文化キャンパスを創出し、ICT分野の地方公立大学として先進モデル校を目指す。「心・技・体」のコンセプトは、今後のICT人材に不可欠な3要素を象徴しており、「心」はイノベーションによる世界にはばたく創業の志、「技」は強い競争力をもつ設計・開発・活用力、「体」は多文化環境における適応・調整・統合力を意味する。このような人材を育成するための具体的な取組として、本事業では学長のリーダーシップの下、4つの「基本プログラム」を柱として改革を進める。一方、教職員の意識向上と、現場に潜在する解決を目的とした教職員提案型の「特別プログラム」も並行して実施する。

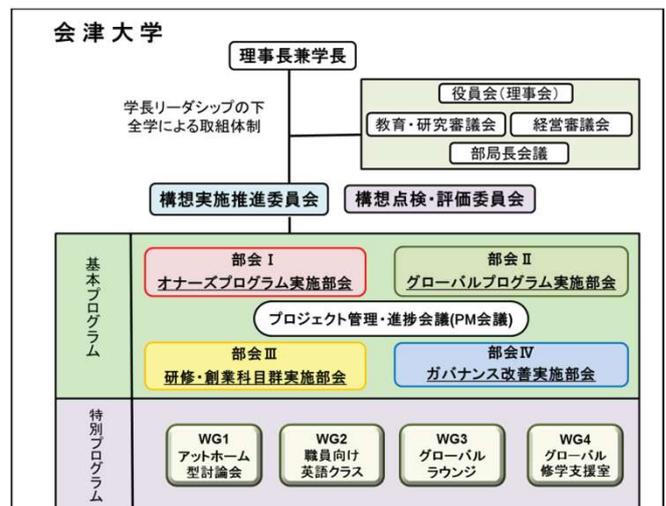


【構想概要】

**【実施体制】**

学長のリーダーシップの下、「構想実施推進委員会」を設置し、学内すべての部局から構成員を集め、改革の実施推進に努める。また、「構想点検・評価委員会」を設置し、地域や産業界の外部有識者を主要な構成員とする。当該委員会では、構想実施の方向性、進捗、効果等を評価する。

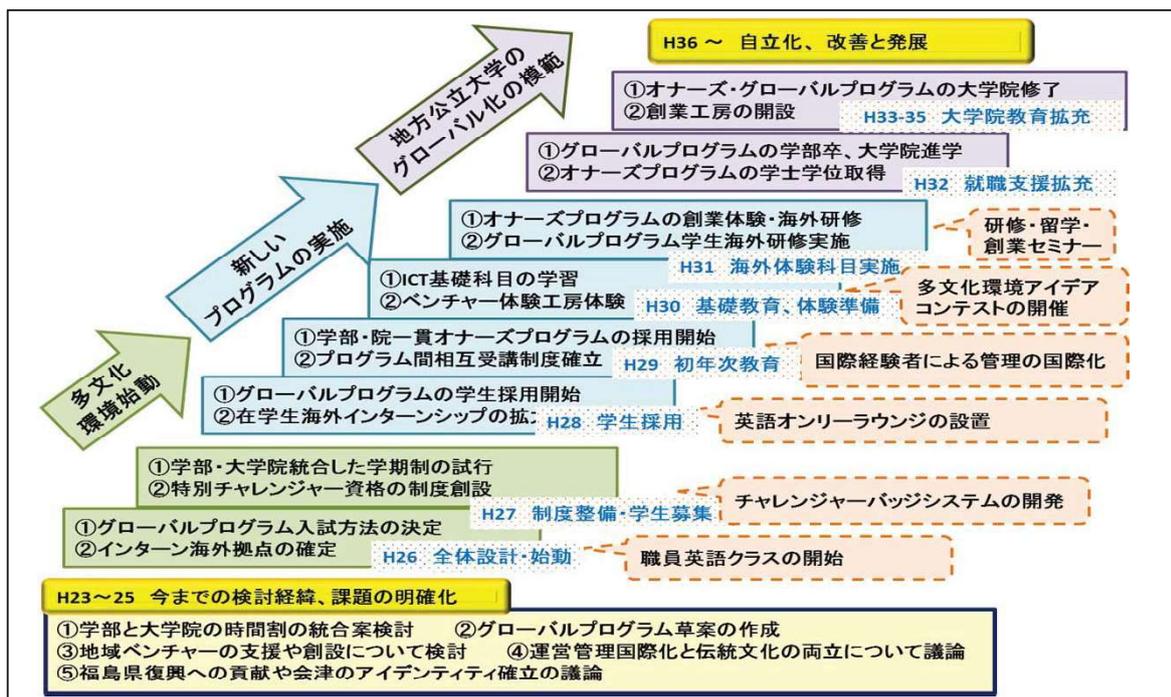
また、学長のリーダーシップの下、本学の各理事がそれぞれの部会長を務める形で、基本プログラムの体制を確立する。さらに、教職員、学生、地域企業やベンチャーの、積極性、主体性や意欲を引き出すために、これらのメンバーが主要な構成員となる4つの特別プログラムを設置する。



【実施体制】

【10年間の計画概要】

本学が既に有する国際化のポテンシャルと、過去の経験から抽出された課題を踏まえ、年度毎に各施策を開始し、その後、毎年継続していくことにより、ICTチャレンジャーを育成する多文化キャンパスの実現を図る。



【10年間の計画概要】

【特徴的な取組(国際化、ガバナンス改革、教育改革等)】

4つの「基本プログラム」は、会津大学の国際的ICT教育の経験を踏まえて設計した。また「特別プログラム」では、修学支援室の強化や職員向け英語クラスの創設など、現場の課題解決に直結したテーマを扱い、基本プログラムを補完する役割を果たす。

＜4つの基本プログラム＞

- (1)カリキュラム構成の改善により、学部と大学院の一貫性や柔軟な履修パスを実現する  
「学部・大学院一貫オナーズプログラムの創設」
- (2)既に実現している大学院に加え、学部も英語のみで卒業可能とする「先進ICTグローバルプログラムの創設」
- (3)より高度な技術を伴った創業精神を育成する「技術革新・創業基礎・海外研修科目群の創設」
- (4)教職員全体の国際化と業務効率化を目指す「ガバナンス改善とグローバル化」

さらに、上記プログラムに対する学生の主体的参加を促すため、参加活動を評価する仕組みとして「チャレンジャーバッジ」を導入する。またこのような活動で卓越した成果を上げた学生には「特別チャレンジャー資格」を授与するなど、教職員と学生が一体となって多文化キャンパスを創出する環境を構築する。

世界の学生が会津大学へ	会津大学	会津大学の特性		オナーズプログラム	(強化)学部も大学院も4学期制を導入 (強化)5年一貫で修士号まで取得 (新規)学生の身分のまま、自由な1年間で起業・留学・インターンを体験	心技体を兼ね備えた人材が世界で活躍 会津大学から世界へ
		目標とする大学の姿	高度なICT教育	先進ICTグローバルプログラム	(新規)英語による授業ですべての卒業単位を取得 (新規)学部生入試の国際基準適用 (新規)日本文化・会津文化への理解を深める (強化)海外の協定大学との連携	
			英語教育(国際教育)	創業系科目	(新規)学部生だけでなく、大学院生の創業の志を育む	
			地域創業風土	インターンシップ	(強化)海外の協定大学と連携して学生を教育 (強化)海外企業や地域ベンチャーでインターンを経験 (強化)多文化環境への適応力を醸成	
				ガバナンス改善と国際化	(強化)柔軟で迅速な意思決定 (強化)英語によるコミュニケーションや事務処理の円滑化 (強化)国際経験豊富な法人職員採用	

【会津大学の特性と目標とする大学の姿】

## 2. 取組内容の進捗状況(平成26年度)

### ■ 共通の成果指標と達成目標

#### 国際化関連

英語のみで全ての卒業単位が取得可能なコース(先進ICTグローバルプログラム)の設置検討  
→ 会津大学の多様性、留学支援体制、語学力、国際開放度の向上

##### 先進ICTグローバルプログラムの概要

- ①対象者: 英語による授業を受講可能な学生
- ②受け入れ学年: 1年次生、3年次編入生
- ③入試方法: 国際基準の入試方法を適用

##### 先進ICTグローバルプログラムの特徴

- ・日本の伝統文化、会津の文化・歴史・教育を学ぶことができる
- ・日本語が話せなくても会津大学で勉強できる
- ・海外留学もしくはインターンシップの機会が与えられる
- ・オナーズプログラムとの連携により、5年一貫で学士号と修士号の取得が可能である

英語のみで全ての卒業単位が取得可能な「ICTグローバルプログラム」の開講に向けて、ICTグローバルプログラム実施部会(部会II)を設置し、平成26年度より検討を開始した。学生募集の方法、全英語カリキュラムの策定方針の作成、新規開講科目の検討を行った。中国やベトナムの大学と協定関係を確認する大学訪問等を実施し、平成28年度以降、3年次編入生および1年次生の受け入れを予定している。

英語のみで卒業できるコースを開設することにより、外国人留学生の割合が増加するだけでなく、英語化する専門科目の増加を図る。また、留学生がより国際的な感覚を身に付けられるよう日本文化・会津文化を英語で学ぶ授業や、日本での生活や就職が円滑になるよう日本語の授業の開講を予定している。

本プログラムの開始にあたり、入試における英語力の基準値の設定や、国際基準の入試方法の調査・検討、外部試験の入試への活用の検討、ネットによる出願方法の検討、学生獲得および選抜のための詳細な検討を開始している。また、増加する留学生に対して十分な支援ができるよう、留学生に対する学費免除や奨学金、学生寮の課題についても調査を開始している。

#### ガバナンス改革関連

##### ガバナンス改革のための調査と検討

→ 迅速な意思決定を実現する工夫、国際通用性を見据えた採用、事務職員の高度化

会津大学は、学長のリーダーシップのもと、外国人教員を含む部局長等が参加する週1回のミーティングを始め、様々な学内会議を通して学長の意思を教職員が共有する体制ができており、迅速な意思決定を行っている。

本学のさらなる国際化を進めるために、平成26年度にガバナンス改善実施部会(部会IV)を設置し、ガバナンス機能と教職員の業務に関する課題の洗い出しを行った。挙がった課題は、方針が決定し解決した課題と、検討中の課題に分類した。特に、平成26年度は、

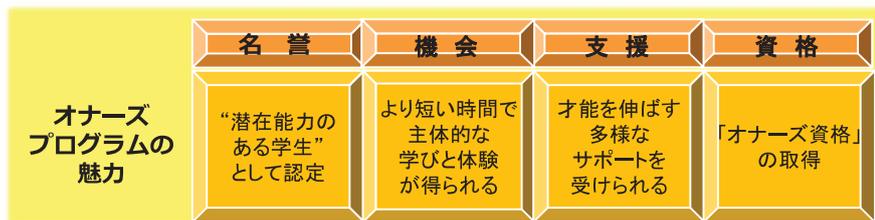
- ①事務職員の英語力向上による事務処理の効率化、②新規職員採用時には英語能力を評価の対象とすること、③文書や書類のペーパーレス化を進め、資源節約を図ることを進めた。

#### 教育改革関連

##### 柔軟な学事暦を取り入れた5年一貫性課程「オナーズプログラム」の設置検討

→ 教育の質的転換・主体的学習の確保、大学の国際開放度の向上

→ 教育プログラムの国際通用性、柔軟かつ多様なアカデミック・パスに対応



学部・大学院一貫性課程「オナーズプログラム」は、潜在能力のある学生に対し、各々の個性や専門性を効率よく伸ばす学習を支援し、学士号と修士号を5年間で取得できるプログラムである。加えて、学生は5年間で学修課程を終えることができるため、在学期間中にベンチャー企業の長期インターンに参加したり、海外大学へ留学することができる。これは、学生の創業精神の醸成やICT技術の研鑽につながる。

平成26年度にオナーズプログラム実施部会(部会I)を設置し、平成29年度開講を目指し検討を開始した。平成27年度は具体的な制度作成と学生の選抜方法を決定する段階にある。

5年で修士まで取得するための支援として、PBL(Project Based Learning)やアクティブ・ラーニングを導入し、質の高い学習時間の増加・確保への取り組みを進めていく。さらに、より短い時間で学生に様々な機会を与えられるよう、例えば、オナーズ学生を企業に紹介したり、早期研究室配属、学外活動参加時の公欠の取り扱いなど、大学によるサポート体制の確立に向けて検討を開始した。

本学は、学部は Semester 制、大学院はクォーター制であり、学部生が大学院科目を受講可能となつてはいるが、単位取得に時間割上の制約があった。このことから、オナーズプログラムの設置にあたり、整合性のとれた学部・大学院の学期制度を導入するため、学部の4学期制導入について議論を開始した。

また、CSC2013(Computer Science Curricula 2013: ACM と IEEE-Computer Society)による Curriculum Guidelines for Undergraduate Degree Programs in Computer Science) に準拠した新カリキュラムへの再構築を実施したことにより、最新の国際基準のガイドラインに則ったカリキュラムを履修することが可能となった。

## ■ 大学独自の成果指標と達成目標

- A チャレンジャーバッジの獲得人数**  
**B 特別チャレンジャー資格の獲得人数**

### チャレンジャーバッジの特徴

学内外の多文化活動に参加した学生の活動を記録するシステムであり、このシステムにおいてバッジの獲得・記録・表示ができるようにする。学生の活動参加意欲を向上させるとともに、学生個人の適性を気づかせることができる。

平成26年度にチャレンジャーバッジのベースシステムを導入し、初期設定が完了した。平成27年度に運用方針を決定し、一部テスト試行の予定である。特別チャレンジャー資格については、平成27年度に資格要件を整理し、新たな学内制度として検討する。

### C 復興関連プロジェクトに参加する学生数

東日本大震災等からの復興支援活動を組織的・継続的に行っていくため、先端ICT研究とその推進に必要な環境の提供、ICT人材の育成を柱とした復興事業を展開することを目的とした活動を行っている。

### D ビジネス・アイデア等のコンテストの参加人数



東京大学主催「JPHACKS」にてチーム「SpiritualDB」が最優秀賞を獲得。



ACM-ICPC国際大学対抗プログラミングコンテストアジア地区予選にてチームAizukYYYがクアラルンプール大会8位入賞。

### E 地域活性化活動の企画数

学生サークル「起業部」を始め、ベンチャー体験工房の学生らは、福島県や会津地域の活性化につながる企画の提案および実施を行っている。



会津大生を中心に活動するNPO法人は、世界各国の料理レシピを福島県産品を材料として作り、福島の農産品の魅力を世界へと発信している。



日本人学生と留学生のチームは、福島県南会津町山口に位置する中小屋集落の住民との協働を通して、中小屋地区の知られざる魅力を発信している。

### F 海外留学、企業研修の人数

短期留学により単位を取得できる集中英語科目「Global Experience Gateway」の参加学生18名のうち、9名が米国、6名がニュージーランドに留学、3名が中国大連にてインターンを体験した。2ヶ月～3ヶ月の中期派遣(米国、NZ)の実績もある。



ニュージーランドのホストファミリーと食事の様子。

### G 発展途上国へのICT教育支援プロジェクト数

教員個人の研究や招聘講師としてミャンマー、中国、ナイジェリア等を訪問し、大学教員や大学生にICT教育支援を行っている。



ミャンマーの大学で、教員と大学院生にコンピュータサイエンスの授業を実施。

## ■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

<h1>心</h1> <p>ICTイノベーションによる創業の志</p> <p><b>SPIRIT</b></p>	<h1>技</h1> <p>ICT設計・開発・活用力</p> <p><b>TECHNOLOGY</b></p>	<h1>体</h1> <p>多文化環境への適応力</p> <p><b>ADAPTABILITY</b></p>
<p>サンノゼ(米国、シリコンバレーの中心都市)と大連(中国)を会津大学の拠点の候補地とする検討を開始した。学生や教員の海外活動の基地として、シリコンバレーでの短期教育プログラムやインターンシップ実施の可能性が高まった。</p>	 <p>新設科目の開講や既存のPBL科目を通して、学生の設計開発力の強化を進める。</p>	 <p>英語で自由にコミュニケーションする場「グローバルラウンジ」を開設。留学生と日本人学生の言語の壁を取り払う。</p>
 <p>シリコンバレー(米国)の日本ベンチャー企業をネットで通信し、インターンシップや最新技術について議論している。</p>	<p>カリキュラムの再構築について議論し、平成28年度の入学者から最新のCSC2013に準拠したカリキュラム履修ができるよう見直しを行った。</p>	 <p>英語で進行する多文化交流会を開催した。</p>
 <p>シリコンバレー(米国)にて拠点の候補地等を視察。</p>	<p>オーナーズプログラムの開講は、才能のある学生の支援につながる。学生の個性や専門性を磨くことにより、より高度な技術を身につけることが可能となる。</p>	 <p>SGU専用ホームページの開設。SGU活動と入試情報等を掲載する。</p>
<p>短期、中期インターンシップの可能性を検討し、平成27年度にテストケースとしてシリコンバレーにおいて短期インターンシップを予定している。インターンシップや創業系科目を通じて創業の心を養う。</p>	<p>より世界標準かつ専門的な学びができるよう、制度の変更や新設科目の開講等について検討を続けている。</p>	<p>キャンパス内での国際的な環境が整備され、留学生と日本人学生の積極的な交流が行われている。平成26年度には国際環境の基盤づくりができたため、平成27年度以降は積極的な運用を進める。</p>

会津からの革新的ICT人材の育成

## 3. 取組内容の進捗状況(平成27年度)

### ■ 共通の成果指標と達成目標

#### 国際化関連

##### 1. 先進ICTグローバルプログラム入試制度の確立

先進ICTグローバルプログラム(全英語コース)のための3つの入試制度を新しく制定し、平成28年度秋入学対象者への募集要項の公開を行った。この入試制度では、SAT、IELTSなどの国際基準を導入するなど、多様性への対応を図った。また、平成28年度秋からの全英語コースの留学生の受入れに先立ち、基本推奨科目を中心に英語による授業の教員の選定・調整をはじめ、初年次から英語のみで全ての卒業単位が取得可能なコースの設計を進めた。また、3年次編入の留学生のための単位互換の認定に関する作業も行った。

##### 2. 海外大学との連携プログラム

会津大学、サンノゼ州立大学(米国)、大連東軟信息学院(中国)による三者協定締結をはじめとする海外の大学との連携関係の構築や、協定校との新たな教育プログラムの構築に向けての検討を実施した。ハノイ工科大学、および大連東軟信息学院との間に「2+2 Undergraduate Program(2+2学部プログラム(3年次編入プログラム))」のための指定校推薦制度に関する覚書を締結し、優秀な留学生を獲得するための仕組み作りを行った。

##### 3. 海外リクルート

留学生のリクルートに関しては、外国人教員・留学生による海外大学等への広報活動を実施したほか、様々な機会をとらえ海外への幅広い広報活動を実施した。特に、中国東北地域においては、現地の教育機関との連携により、多数のトップクラスの高校への訪問を実施した。さらに、中国瀋陽市において「会津大学留学説明会」「コンピュータコンテスト」を開催するなど、積極的な留学生のリクルート活動を展開した。

##### 4. 米国シリコンバレー拠点準備室の設置

1月に米国シリコンバレー拠点準備室を設置した。本学では、今後この海外拠点を活用し、海外研修プログラムの実施、遠隔授業の実施のほか、本学に関する情報の発信や近隣の大学との交流・連携の拡大を図っていく予定である。

#### ガバナンス改革関連

##### 1. 事務の効率化と改善に関する取組

昨年度から開始しているペーパーレス会議を順次、他の会議へ導入した。これに加え、教員用「予算管理支援システム」を開発導入するなど、全教員に実施したアンケートからの要望をもとに事務の効率化や改善を実施した。

##### 2. 職員向け英語クラス

職員向け英語クラスを、毎週1回開講した。前期は1クラス13名、後期は2クラス15名が参加した。クラス開講・閉講時にはレベル・チェックテストを実施し、受講者全員の成績が向上した。また、職員の自主的な取組として、毎週火曜に自主クラス“Lunch Meeting”を開催した。さらに、海外での業務の機会を捉え、法人職員を海外に派遣した。

##### 3. 業務改善活動の検討

学内の業務改善活動として、「女性教員比率の向上」「年俸制の導入」「事務職員の高度化」などについての検討を進めた。

#### 教育改革関連

##### 1. 「クォーター制(4学期制)」の実施の決定

平成28年度からの学部における「クォーター制(4学期制)」の実施が決定した。これにより、開学以来行われている大学院の4学期制との連動による学部・大学院一貫オナーズプログラムの実現に向けて大きく進展した。さらに「クォーター制(4学期制)」に対応した教務システムの改修も行った。

##### 2. 学部・大学院一貫オナーズプログラム

オナーズプログラムに関して、コースメリットの整理をはじめ、対象学生の選抜方法、新規科目、コースの履修例、支援メニューなどの検討を進めた。オナーズプログラムへの参加学生への支援の一環として「オナーズメーカーーム」を来年度新設するととなり、そのための準備を開始した。

##### 3. 「チャレンジャーバッジシステム」の開発

チャレンジャーバッジシステムの基本機能の設計・開発を実施した。また、開発したデモシステムを用いて、学生、教員、ベンチャー企業によるテストを実施した。

## ■ 大学独自の成果指標と達成目標

### 1. 創業系科目の新設と遠隔Hotlineゼミの実施

大学院の創業系科目として、「ICTグローバルベンチャー工房」を新設し、平成28年度からの開講に向け準備を行った。また、シリコンバレーとの遠隔Hotlineゼミを定期的に(月1回程度)開催し、それを通じて最先端の技術やビジネスに関する情報交換なども実施した。

### 2. シリコンバレー研修の実施

海外インターンシップのモデルケースとしてのシリコンバレー夏研修を実施した。この研修は会津若松市及び会津大学発ITベンチャー企業と連携し、9月13日～27日の2週間にわたりシリコンバレーのハッカー道場(HackerDojo)にて実施し、4名の本学学生及び1名のOBが参加した。研修内容としては、ソフトウェアとハードウェアを融合し、IoT(Internet of Things)に関連したプロトタイプ開発を中心に行い、開発した製品の発表会も行った。また、スタンフォード大学や有名企業・各種施設やスタートアップや投資会社への訪問等も行った。

### 3. 福島復興支援プログラムの実施

平成27年8月31日～9月8日に、「福島復興支援プログラム」を実施した。大連東軟信息学院(中国)から5名、太原理工大学(中国)から4名、淡江大学(台湾)から1名、また本学からは4名の学生が参加した。このプログラムでは、「会津の魅力とデザイン思考の学習」「ICTを活用した復興支援」「被災地の現状理解」「ふくしまの魅力の創出」をテーマに活動をした。交流協定を結ぶ海外の大学・研究機関との学生交流をさらに深め、本県や本学の魅力を広く国際社会に発信することができた。

## ■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

### 1. 会津大学スーパーグローバル大学シンポジウム

3月10・11日の2日間にわたり、「世界で活躍するICTイノベーター、起業家の育成」と題して、会津大学スーパーグローバル大学シンポジウムを開催した。2日間の延べの参加者数は210名であった。このシンポジウムでは、海外と国内の大学の学長などによる基調講演、SGU採択理工系4大学による成果発表及びパネルディスカッション、会津大学OBによるICTベンチャー企業の取り組み発表会、グローバル人材育成のための国際パネルディスカッションなどが行われた。また、協定大学及び機関との交流活動もこのシンポジウムの開催に合わせ実施された。

### 2. 世界文化フェアを開催

平成27年年10月10日に世界文化フェアを開催した。世界文化フェアでは、8か国の留学生、外国人教員の家族による母国のブースを設置し、それぞれの国の文化を紹介した。来訪者は約250名であった。また、このフェアでは、スタンラリーや、フェイスペインティングなどの様々な催しも行った。本学教員によるベトナム、ナイジェリア、ミャンマーなどの発展途上国への情報通信技術(ICT)に関する教育支援活動の報告会も、このシンポジウムの開催に合わせ実施された。

### 3. 広報活動

ウェブページの大幅なリニューアル、英語・中国語対応のパンフレット・チラシの作成なども行った。さらに、マスコミ等への話題提供、取材対応などについても積極的に行った。

## ■ 自由記述欄

今年度は、グローバル入試制度の確立、4学期制の導入の決定をはじめ、本学の国際化・多様化に対応した実質的な教育体制の構築や様々な取組みを行うことができた。

総じて達成状況としては概ね計画通りの進捗であり、次年度以降の具体的な実施に向けての土台作りを着実に進めることができた。

## 4. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

【会津大学】

### ■ 共通の成果指標と達成目標

#### 国際化関連

##### 1. ICTグローバルプログラム全英語コース

- 1)2015年度に下記3つの入試制度を策定し、2016年度より実施した。
  - (A) 全英語コース「一般選抜」
  - (B) 全英語コース「中国特別選抜」
  - (C) 全英語コース編入学「海外居住者選抜」
- 2)2016年度に、全英語コース「香港特別選抜」を策定し、2017年度より実施する。
- 3)全英語コース「一般選抜」の募集要項において、出願要件にIB、SAT、EJU、ACTの国際基準を導入した。
- 4)2016年10月に、留学生11名が入学した。

##### 2. ICTグローバルプログラム全英語コースに対する新規科目

- 1)学部留学生用授業として、「会津の歴史と文化」、「初級日本語Ⅰ」、「初級日本語Ⅱ」を実施した。
- 2)2017年度より「中級日本語Ⅰ・Ⅱ」、「上級日本語Ⅰ・Ⅱ」を開講する準備が整った。
- 3)「会津の歴史と文化」では、英語で会津の歴史を学べる内容であり、留学生のみならず、日本人学生も受講した(留学生4名、日本人学生7名)。留学生は、会津と自国の文化を比較することにより多様な考え方を学び、一方で日本人学生は会津の魅力を再発見することにつながった。

##### 3. 会津大学シリコンバレーオフィスの開所と遠隔講義の実施

- 1)2016年5月17日に、世界のIT企業が集まるシリコンバレー(米国カリフォルニア州)にあるHacker Dojoという施設内に研修拠点「会津大学シリコンバレーオフィス(SVオフィス)」を開所した。
- 2)SVオフィスと会津大学を遠隔会議システムで繋ぎ、大学院授業「ICTグローバルベンチャー工房」を実施した。この科目でSVの経営者らを講師に迎え、大学院生は、SVにおける起業の仕方や最先端テクノロジーに関する講義を受けた。
- 3)SVオフィスを活用して、「米国シリコンバレーインターンシッププログラム」を実施した。



#### ガバナンス改革関連

##### 4. 業務改善活動の検討

- 1)「会津大学ダイバーシティ推進宣言」を策定した。
- 2)法人職員がSGU事業の海外出張に同行し、現地の大学事務職員と意見交換を行い、業務改善を検討する機会を設けた。

##### 5. 職員向け英語クラスの継続的な開講

- 1)2015年度より継続している職員向け英語クラスを前期と後期に開講した。
  - ・レッスンでは、教材に加え、大学事務職員として外国人教員や留学生と会話する際に使用するフレーズ集を学習した。
  - ・クラスの開講時と閉講時にはレベルチェックテストを行い、受講者の英語能力の変化を評価した。
- 2)2016年度より開始した自主クラス"Lunch Meeting"を継続して行い、自主的な学習に取り組んだ。

#### 教育改革関連

##### 6. 「クォーター制(4学期制)」の全学導入

- 1)学部に4学期制を導入し、開始した。これにより、従来から4学期制であった大学院の授業を学部生が履修できる体制を整えた。
- 2)学部生が大学院授業を履修できるようになるため、より多くの学生が大学院に進学することが期待される。
- 3)授業を短期間で集中的に履修することになり、高い学習効果が期待できる。
- 4)海外留学やインターンシップ等に参加しやすい学習環境が整った。

## ■ 大学独自の成果指標と達成目標

### 7. オナーズプログラム

- 1) オナーズプログラムの実施スキームをまとめ、2017年度からの開始に向けて準備を行った。
- 2) オナーズプログラムは、学生の興味・意欲に応じた活動メニューと支援体制を用意し、異能・異才を発掘・育成することを目的としている。
- 3) オナーズプログラム用新設科目「ものづくり基本講座」および「プログラミングコンテスト準備講座」を試行的に開講した。受講学生からは継続を求める声が聞かれた。

### 8. チャレンジャーバッジシステム

- 1) 学生の課外活動の成果に対して専用アプリ上で「バッジ」を与え、評価するシステムである。バッジの収集が学生の意欲を刺激することをねらいとしている。
- 2) 一部の学生に対して試行を開始した。
- 3) 英語対応バージョンの開発を行い、2017年3月に公開した。
- 4) 専用アプリをiOS App StoreとGoogle Playからダウンロード可能にした。
- 5) 全学生に対して説明会を実施した。

## ■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

### 9. モノづくりを中心とした研修「米国シリコンバレーインターンシッププログラム」の実施

目的: アメリカのシリコンバレー(SV)に学生が赴き、SVの起業風土、先進的なICT技術、モノづくり精神などについて学ぶ。

特徴: 実際に製品化を目指した開発を行い、SVで働くエンジニアや起業家に英語でプレゼンテーションをする。

スケジュール: 国内での事前研修1週間と国外研修2週間、および学内発表会の約3週間のプログラム。

<2016年度>

研修期間: 国内事前研修2016年8月15日～19日、国外研修2016年8月23日～9月6日

研修学生: 9名(学部1年生1名、2年生1名、4年生3名、修士1年生3名、修士2年生1名)

内容:

- ・国内事前研修では、学生は、学内モノづくりスペース「Aizu Geek Dojo」において試作品を製作した。
- ・国外研修では、会津大学SVオフィスを開発拠点とし、試作品に改良を加えた。
- ・学生は、SVのエンジニアや起業家の前で開発品のプレゼンを行った。
- ・ビジネスと技術の2つの視点から意見をもらい、学生たちはモノづくりへの強いモチベーションを得ることができた。



### 10. 学内モノづくりスペース「Aizu Geek Dojo」の開設

- 1) 2016年8月10日、会津大学研究棟内にAizu Geek Dojoを開設した。
- 2) ここには、3Dプリンターやレーザーカッター等の工作機械が設置され、学生や教員が自由にモノづくりをすることができる。
- 3) オナーズプログラム用新設科目「ものづくり基本講座」をこのDojo内で実施した。この講座は「ロボット製作」がテーマであり、学生が考え出したアイデアをソフトフェア、電子回路、ハードウェアの組み合わせにより、短期間でプロダクトとして実現させた。



## ■ 自由記述欄

### 11. THE 世界大学ランキング日本版 23位

2017年3月に公表された「THE世界大学ランキング日本版」において、会津大学は総合ランキングが23位であった。会津大学の国際性と教育満足度が高く評価された。

### 12. AIZU SGU KAWARABANの発行

- ・2016年6月より、会津大学SGU事業の活動内容についてまとめ、月1回程度のペースで教職員と学生に配布している。
- ・KAWARABANの内容は、会津大学SGU-HPにアップし、学外に向けても発信している。
- ・KAWARABANを発行することにより、学内外にSGU活動をPRでき、SGU活動に対する理解と協力が得やすくなった。

## 5. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【会津大学】

### ■ 共通の成果指標と達成目標

#### 国際化関連

##### 1. ICTグローバルプログラム全英語コース(ICTG)の選抜

2016年度にはICTG一般入試、中国特別選抜、ICTG3年次編入試験を実施し、2017年度には香港中学文憑試験(HKDSE)を利用した「香港特別選抜」を実施した。2018年度は中国特別選抜、ICTG3年次編入試験のほかICTG一般選抜の出願要件としてHKDSEの要件をIB、SAT、EJU、ACTと併せて5つとした。

- ICTグローバルプログラムの入学者数:2016年度:11名、2017年度:16名
- ICTグローバルプログラムの出願者の出身国・地域:2016年度:4か国、2017年度:9か国、2018年度:10か国

##### 2. 国内外の学生募集に向けた広報活動

国内外のインタナショナルスクール訪問、海外の高校訪問を実施するとともに、海外における日本進学フェアへの出展などを行った。また、多言語対応の学生リクルーティングサイトを利用し、情報発信及び学生募集を行った。このような活動が功を奏し、ICTG入試に関する問い合わせ数の増加や、出願者の出身国・地域数や出願者数が前年度より増加した。

##### 3. 留学および海外インターンシッププログラムの充実

●短期・中期派遣留学プログラム:19名の学生が米国およびニュージーランドのプログラムに参加した。

●インターンシッププログラム:シリコンバレー:8名、大連:3名の学生が参加した。2017年度から単位付与科目となった。

##### 4. 留学生と日本人学生の交流

●英語で開講される「会津の歴史と文化」の授業では、留学生のみならず、多くの日本人学生も履修し、留学生と日本人学生の交流に寄与している。更に、会津地域の高校生へも当該科目を履修することを可能とし、地域の高校生も留学生との交流を深めた。

●新入学生と新任教職員に対するウェルカムパーティーを春学期と秋学期に実施した。

●バディプログラムを継続的に実施した。16名の新入留学生に対して18名の日本人学生がバディとなり、留学生を様々な面からサポートした。

●バディプログラム活動を通して親交を深めたメンバーが主体となり、国際交流サークル「Hello World!」が設立された。

●グローバルラウンジの活用が定着し、英会話、バディプログラム、日本語学習、国際交流サークルの場として利用されている。

●留学生が母国の文化等を紹介するインターナショナル・トークを3回行った。



〈米国・ローズハルマン工科大学への留学生〉



〈「会津の歴史と文化」の授業で留学生と日本人学生・高校生とのチーム発表の様子〉

#### ガバナンス改革関連

##### 5. SGU事業自立化推進委員会の立ち上げ

SGU事業自立化のための推進委員会を設立し、予算の自立化と業務の自立化の2本を柱として対策を検討していく方針をまとめた。

#### 教育改革関連

##### 6. ICTグローバルプログラム関連科目の新規開設

これまで開講していたICTグローバルプログラム関連の科目に加え、「中級日本語I」「中級日本語II」「上級日本語I」「上級日本語II」を新規開講した。さらに、「ビジネス日本語」などを新規開講する準備を進めている。

##### 7. E-learningシステムの導入

学生の語学力向上のため、e-Learningシステムによる「TOEIC」対策のコースを導入した。学生へ利用を促進することで、学生の英語力の向上に加え、留学生や外国人教員とのコミュニケーションの活発化が図られることが期待できる。

## ■ 大学独自の成果指標と達成目標

### 8. オナーズプログラム制度の整備

大学院進学への促進及び特異な才能の早期発掘・育成を目的としたオナーズプログラムを設定した。「学部・修士一貫型」と「異才発掘型」の2つのタイプを整備した。

#### ●学部・修士一貫型

・学部と博士前期課程(修士)を5年間で修了することを可能とする。また、最長1年間のオナーズイヤーを利用することを可能とする。

・2018年4月現在の認定者:20名

- ①タイプA(学部4年+博士前期課程1年)
- ②タイプB1(学部3年終了時退学+博士前期課程2年)
- ③タイプB2(学部を3年で卒業+博士前期課程2年)

※オナーズイヤー:学部・修士一貫型プログラム認定学生が、博士前期課程に入学した後、学外での研究、留学やインターンなどの活動に費やすための期間。休学扱いとなるが、大学から支援を得ることが可能。

#### ●異才発掘型

・学生の持つ特異な才能の発掘、育成を図るため、学部生の様々な活動に対して、活動費助成などのサポートを行うプログラム。

### 9. チャレンジャーバッジシステムのバッジ付与を開始

・2017年度に「チャレンジャーバッジ実施要領」を制定。これにより、バッジ申請や認定イベントの申請が可能となった。

・学生は課外活動に対し大学から評価を得られるようになった。

・2018年度からは、企業等との連携を拡充し、学生が様々なコンテストや、社会貢献活動等のイベントに参加するよう、さらに促進していく。

●2017年度中の発行バッジ数:銀バッジ8枚、銅バッジ17枚、コイン20枚

●外部企業から申請のあったハッカソン・アイデアソン等のイベントを認定イベントとして実施(3件)、実施した。

## ■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

### 10. ものづくりを中心とした「米国シリコンバレーインターンシッププログラム」

シリコンバレーインターンシッププログラムを実施し、参加学生は現地のエンジニアと交流しながらプロトタイプの開発を行った。また、現地でのイベントや現地新聞社による配信を通じて成果を発信した。帰国後は学内での事後発表や地域イベントへの参加を通じ、研修結果を発表した。

### 11. 三者連携による「中国・大連インターンシッププログラム」

大連インターンシッププログラムを、大連の大学・日本企業・会津大学の3者協定に基づき実施した。学生は、中国の最新のICT事情や製品性能評価を学び、体験した上で、日中合同の学生チームを作り、新しいICTビジネスについて企画・発表を行った。

## ■ 自由記述欄

### 12. 学内ものづくりスペース「Aizu Geek Dojo」の利用展開

「Aizu Geek Dojo」の管理および利用者をサポートするための体制と規定を整えたほか、機器使用の指導を行うSA・TAを定期的に配置し、安全に利用できる環境を整えた。オナーズプログラムの科目「ものづくり基本講座」で使用するほか、学内見学コースに組み込まれ、見学者から大変好評である。

●Aizu Geek Dojoの利用者は2016年8月の開所以来延べ550人となった。



〈チャレンジャーバッジシステムアプリの画面〉



〈チャレンジャーバッジ認定のハッカソンにおける成果発表〉



〈サンノゼ・ミニメーカフェアでの展示〉



〈会津大生の成果発表に関するローカルメディアの報道〉



〈ものづくり基本講座での制作の様子〉

## 6. 取組内容の進捗状況(平成30年度)

【会津大学】

### ■ 共通の成果指標と達成目標

#### 国際化関連、教育改革関連

##### 1. ICTグローバルプログラム全英語コース(ICTGコース)と教育の質の向上

〈ICTGコース在籍者数推移〉

	2016	2017	2018
1年生	4	9	7
2年生	0	4	9
3年生	7	7	9
4年生	0	7	7
<b>合計</b>	<b>11</b>	<b>27</b>	<b>32</b>

- バディプログラム:新入留学生12名に対し、日本人学生29名がバディになり、友達関係を築いた。
- ICTGコースを2018年9月に卒業した留学生7名のうち、6名の学生が本学博士前期課程に進学した。
- 留学生向け科目「会津の歴史と文化」、「初級・中級・上級日本語I,II、ビジネス日本語」を継続的に実施した。
- 2017年度までにすべての基本推奨科目に英語クラスを設置し、2018年度より開講した。
- 専門科目の全83科目中68科目において英語クラスを設置した。
- Task Based Learningを取り入れた英語教授法導入、英語e-Learningシステムを導入、TOEIC直前対策講座の実施等による英語学修の機会を拡大した。

- 日本人学生のICTGコース在籍についての制度を制定した(施行日:2019年4月1日)。

⇒ 会津大生のグローバル化と技術力獲得、会津大学の教育の質の向上、教育のPRに貢献すると考えられる。

#### ICTGコース在籍メリット

- ✓ 多国籍の学生が共に英語でコンピュータサイエンスを学ぶ。
- ✓ 英語によるコミュニケーション能力の向上。
- ✓ 国際的な環境に慣れる、国際理解が深まる。
- ✓ 大学院進学希望者・オナーズプログラム一貫型参加希望者:早期に英語環境に慣れる。
- ✓ 海外派遣希望者:より実践的な英語力を身につけることができる。申請時や面接時にアピール。

##### 2. 海外派遣の充実

〈海外派遣参加者数と応募者数の推移〉

参加者数/応募者数(人)

	2016	2017	2018
留学			
ローズハルマン工大*	10 / 14	10 / 12	10 / 28
ワイカト大学**	8 / 10	8 / 10	11 / 14
インターンシップ			
シリコンバレー	9 / 12	8 / 14	8 / 22
大連(DNUI***)	1 / 1	3 / 3	4 / 8

\*ローズハルマン工科大学(アメリカ)

\*\*ワイカト大学バスウェイブ・カレッジ(ニュージーランド)

\*\*\*大連東軟信息学院(中国)

- 海外留学を継続的に実施・・・異文化体験および海外で活躍する意識の動機付け。
- 海外インターンシップを継続的に実施・・・世界の先進ICT重点地域で特定分野に強みを持たせる。
  - シリコンバレー(SV)インターンシップ:ものづくりを通じた企画力と技術力、現地エンジニアとの交流を通じた英語力と交渉力を得た。
  - 中国・大連短期インターンシップ:DNUI\*\*\*で市場調査を通じたICTビジネスの企画力、日中合併企業でのインターンシップを通じたグローバル戦略の理解ができた。
  - SOVOプログラム:2019年3月にアルパイン株式会社と本学の共同による大連事業開発プログラム(SOVOプログラム)を実施。アルパイン社によるアドバイスの下、本学とDNUIの混成学生チームがカーシェアサービスの企画立案を行った。

⇒ 説明会では経験者が登壇し、参加者と直接質疑応答を行い、参加者に対して興味と期待を与えることができた。

⇒ 学生に会津大学の国際性を認識させることにつながっている。

⇒ 海外派遣を通じて英語力や技術力に自信を持った学生たちと他の学生が共に活動することで、学生相互に良い影響を与えている。



〈ローズハルマン工大〉



〈ワイカト大学〉



〈SVで現地エンジニアとディスカッション〉



〈大連東軟信息学院にてICTビジネスの企画〉



〈SOVOプログラムにおけるブレインストーミング〉

##### 3. キャンパスのグローバル化と多文化環境の充実:国際交流活動の定着

- グローバルラウンジの活性化・・・すべての曜日においてランチタイム英会話、英会話サークル、英語による映画視聴等の活動で利用している。(利用者年間延べ人数:約600名)
- ウェルカムパーティの継続実施・・・春(5/31):参加者89名、秋(10/31):参加者約100名
- インターナショナル・トークの継続実施・・・(12/19)参加者約30名、ドイツ出身の短期受入留学生がドイツのクリスマスについて紹介

4. 自走化に向けた検討開始

SGU事業の自走化に向けての検討を本格始動した。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

5. オナーズプログラム制度を活用した、突出した技術力を備えた人材の育成

〈オナーズプログラム学生数〉

2018	
学部・修士一貫型認定者	12
タイプA (学部4年+修士1年)	2 (学部3年)
タイプB (学部3年+修士2年)	10 (学部3年)
学部・修士一貫型候補者	16 (学部2年)
異才発掘型認定者	6 (学部1年2名、2年4名)

- 2017年度に制度制定、2018年度より運用開始。
- **学部・修士一貫型プログラム**・・・学部と修士課程を5年間で修了し、オナーズイヤー1年を取得できるプログラム。5年で計画的かつ円滑に修士の学位を取得でき、オナーズイヤーの1年を自己実現のために使える。
- **異才発掘型プログラム**・・・特異な才能を早期に発掘・育成するためのプログラム。学生の異才を指導教員が早期から育成。

《異才発掘型:オナーズ活動費取得事例》

- ・ 整数論やグラフ理論、アルゴリズムを学習し、プログラミング能力を磨き、ACM-ICPCに出場、入賞を目指す。
- ・ 独自のレンダリングアプリ開発や国際的なハッカソン出場を通して、ソフトウェア開発のスキルを磨く。
- ・ 大連東軟信息学院(中国)に留学し、語学研修・ボランティア活動を行う。

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

6. チャレンジャーバッジ制度を活用した学生の課外活動促進と地域振興

〈バッジ発行枚数と公認イベント件数の推移〉

	2017	2018
バッジ発行枚数(枚)	41	133
公認イベント件数(件)	2	5

- 学生の課外活動をバッジを付与することにより評価する制度。
  - 企業・団体主催の会津大学チャレンジャーバッジ公認イベントを通じて、学生が地域企業や団体と共に地域課題を発見し、解決する機会を設けた。
  - 公認イベントへの参加学生数がバッジ発行枚数増加に寄与した。
- ⇒ 学生の興味・志向および技術力と発想力の幅を広げる一助となっている。
- ⇒ 学生は、地域振興と産業振興の課題と技術のつながりを理解できるようになった。



〈TDKハッカソンでの開発の様子〉



〈公認イベントでの授賞式の様子〉

7. 学内ものづくりスペース「Aizu Geek Dojo」における活動活性化と技術力のPR

〈利用者数と見学対応数の推移〉

	2016	2017	2018
利用者数(人)	120	256	480
見学対応数(件)	10	10	22



〈Aizu Geek Dojo製作物紹介動画2018〉



〈技術交流をしながら様々な製作をする学生達〉

- 個人の趣味製作、コンテスト出展作品製作、サークル活動、卒業研究、課外プロジェクト製作等の場面で活用。
  - SA/TAが機器使用の指導を利用者に継続的に実施しており、安全性にも配慮した施設運営を行っている。
  - 企業主催のハッカソンにおいてAizu Geek Dojoが使用できるように企画しDojo内設備と備品を使用して学生が開発品を製作した。
  - SA/TAによる運営と開発
    - 入退室システムの開発・・・学生カードをリーダーにかざすだけでいつ・誰が・入退室したのかがわかる。
    - 「Aizu Geek Dojo製作物紹介動画2018」を製作し、会津大学公式Youtubeにアップ。
    - Aizu Geek Dojo Webpageを製作・・・開室時間、講習会予約、利用方法等をお知らせ。
    - 「はやぶさ2プロジェクト」の目的地である小惑星「リュウグウ」の模型を3Dプリンタを使用して製作。
- ⇒ 学生同士の技術交流が生まれる場となっている。
- ⇒ 会津大学の名物施設となっており、学生のソフトとハードを組み合わせる技術力や会津大学の教育を学内外にPRしている。

## 7. 取組内容の進捗状況(令和元年度)

【会津大学】

### ■ 共通の成果指標と達成目標

#### 国際化関連、教育改革関連

##### 1. ICTグローバルプログラム全英語コース(ICTGコース)

###### ■ 出願者数が過去最大に(令和2年度1年次入学者募集)

これまでの国内外における高校訪問やフェア参加、遠隔での説明会などの募集活動に加えて、現在学生の母校への良質な口コミ浸透などが実を結び、昨年度から倍以上の出願者数となった。

###### ○ 出願要件の多様化

昨年度までの7つの出願要件に加え、令和元年度は新たに2つの要件を追加したことで、出願可能な国の多様化をさらに拡げることができている。新規出願要件を利用して、早速学生からの出願があった。

▼令和元年度時点の出願要件一覧

国際バカロレア(IB)／SAT Subject Tests／日本留学試験／ACT／中国 全国統一入試(高考)／Cambridge International A-level／HKDSE／【新】GCE A-level／【新】AISCCE

###### ○ 対面での募集活動に変わる新たな取り組み

これまで国内外での募集活動を積極的に行ってきたが、香港の騒乱や、新型コロナウイルスの感染拡大の影響から、今年度現地説明会を開催できなかった地域については、  
・テレビ会議の活用  
・メール等による細やかなコミュニケーション  
に取り組み、出願者数を増加させることができた。

###### ■ 日本人学生在籍制度の運用開始

今年度より、日本人学生が留学生と同じクラスで、英語での授業を受ける環境が整った。留学生の受講姿勢に刺激を受けている日本人学生の姿も見え、互いに切磋琢磨しながら国際感覚に磨きをかけている。

##### 2. 海外派遣の充実

###### ■ 外部資金によるインターンシッププログラムの実施

今年度、下記2件のインターンシッププログラムを外部資金により実施し、今後の自走化に向けての礎を築くことができた。

###### ○ 新プログラム「シリコンバレーインターンシップコースB」米企業へ1.5カ月派遣

シリコンバレー企業に2名の学生を派遣し、社員と共に製造の故障検知システムの開発等を行った。さらに、従来の「コースA」にも7名の学生が参加し、シリコンバレーでのインターンシップが充実してきている。

###### ○ 中国・大連事業開発プロジェクト⇒学内での代替プログラムを実施

3月に大連にて実施予定だった2つのプログラムは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となったが、参加予定だった学生から希望者を募り、8名が学内にて代替プログラムを実施した。(今年度夏期には大連短期留学プログラムが実施されており、8名の学生が参加している。)

###### ■ 「三段階」インターンシッププログラムの確立

地域・国内・海外 すべてのフェーズのプログラムの提供が始まったことで、いくつかのフェーズを組み合わせて活用する学生も出てきている。

###### ■ 令和2年度以降に向けた新インターンシッププログラムの開拓

次年度の外部資金獲得見通しがつき、ベトナムでのインターンシッププログラム科目整備を行った。(新型コロナウイルスの状況を注視しつつ、実施可否の判断をする予定)

##### 3. キャンパスのグローバル化と多文化環境の充実:国際交流活動の定着

###### ■ Lunch MeetingやInternational Talkによる交流活性化

留学生の出身国・文化紹介イベント(International Talk)や、日本語及び留学生の出身国の言語による交流機会(Lunch Meeting)を設けるなどして、多言語による多文化理解がより深まっている。

###### ■ 食堂や後援会を巻き込んだ多文化キャンパスの実現

学生食堂と外国人留学生後援会の協力を得て、世界各国の料理をスペシャルランチとして提供することによる食文化紹介を毎月実施した。1回のイベントで80食～100食程度を提供し、学生や地域住民に対して世界の文化に対する興味関心を喚起できた他、それを通して多数の人々から留学生の生活支援に係る寄付金を獲得することができた。

留学及び海外インターンシッププログラムへの参加希望学生数も増えてきている。また、日本人学生と留学生がチームとなって外部イベントへ参加するなど、多文化が融合した環境が整備されてきた。



〈ICTGコース在籍者数推移〉

	2016	2017	2018	2019
1年生	4人	9人	7人	2人
2年生	0人	4人	9人	16人
3年生	7人	7人	9人	16人
4年生	0人	7人	7人	9人
合計	11人	27人	32人	34人

〈インターンシップ成果発表会〉  
英語でのセッションを行った。



〈インターンシップの様子〉



〈国際交流活動等の参加者数推移〉	2018	2019
グローバルラウンジ利用者数	600人	1,509人
インターナショナルトーク参加者数	30人	115人
留学フェア参加者数	240人	286人
インターンシップ説明会参加者数	120人	154人

## ガバナンス改革関連

## 4. 自走化に向けた取組みが進展

今年度は自走化に向けて、2件の外部資金獲得実績を作った。さらに、来年度以降に向けて5つの団体から外部資金獲得の見通しが立っている。

## ■ 大学独自の成果指標と達成目標

## 5. オナーズプログラム制度を活用した、突出した技術力を備えた人材の育成

## ■ オナーズプログラム参加者数の増加が堅調

プログラム参加学生数は92人となり、今年度の数値目標(70人)に対して約1.3倍の学生が参加している。

学生の視点からも制度の改訂内容が魅力的なものとして浸透し、自身の将来に向けてのメリットとして享受できるものと認識が深められた。

## ■ 学部・修士一貫型から初の早期修了者を輩出

今年度からオナーズプログラムを修了する学生が出てきている。学齢の若い学生が国際大会で筆頭著者として論文を発表し、活躍する姿が見られている。

## ■ 異才発掘型を活用する学生が活躍

教員に対する説明を個別に実施したことにより、教員の異才発掘・育成に対する意識が醸成できた。今年度は異才発掘型の学生が、中国・武漢でのサマーキャンプに日本全国の応募者から選抜されるなど活躍している。

学内では認定学生をモデルにしたポスターを掲示し、さらなる認知向上・候補者育成に努めている。

〈オナーズプログラム学生数〉		2018	2019
学部・修士一貫型認定者	合計	12人	9人
タイプA (学部4年+修士1年)		2人	2人
タイプB1 (学部3年+修士2年)		5人	5人
タイプB2 (学部3年+修士2年)		5人	4人
学部・修士一貫型候補者	合計	16人	25人
異才発掘型認定者	合計	6人	5人



## ■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

## 6. チャレンジャーバッジ制度を活用した学生の課外活動促進と地域振興

## ■ 公認イベントの件数、バッジ発行枚数は年々増加

チャレンジャーバッジ公認イベント数は2017年:2件→2018年:5件→2019年:10件と年々増加し、またチャレンジャーバッジの発行枚数も増加した。

今年度は海外インターンシップへの参加者が全国でのコンテストやハッカソンで入賞した事例もあり、単にイベントに参加するだけでなくその中で活躍する姿が多く見られた。

## ■ 地域から全国区まで様々なイベントを通じて学生の企業・社会理解を促進

地元企業が主催するハッカソン等のイベントも多く開かれており、そこに学生が参加することで、企業が目指す姿や社会貢献への姿勢に触れ、起業意識が高まった。

また、ワークショップ運営に学生が主体的に参加する機会もあり、イベント参加を通して地元社会のニーズ理解にもつながっている。

〈バッジ発行枚数の推移〉

	2017	2018	2019
バッジ発行枚数	41枚	165枚	336枚



## 7. 学内ものづくりスペース「Aizu Geek Dojo」における活動活性化と技術力のPR

## ■ 利用者数の伸びが堅調

機器使用講習会の実施など、Aizu Geek Dojoの利用を促進してきたことで、利用者数は896名と伸びており、個人制作だけでなく授業や卒業研究用の制作など多用途で活用され、学生の技術力が着実に向上してきている。

## ■ 利用者が国内外のインターンシップやハッカソンで活躍中！

Aizu Geek Dojoの利用者は、インターンシッププログラムやハッカソン・コンテスト等の外部イベントにも積極的に参加し、受賞実績をあげている。年々活動が活性化し、学生のチャレンジ精神が育成されてきている。

## ■ 地域の小学生を招き公開講座を実施

学生が主体となって企画・運営する地域公開講座を実施。地域の小学生親子との技術交流ができた。

## ■ 新型コロナウイルス対策に向けた地域医療機関への協力

医療機関の依頼でフェイスシールドの試作品をAizu Geek Dojoの3Dプリンターで製作。また、一時的に無償で機器の貸し出しを行った。

〈利用者数の推移〉

	2017	2018	2019
利用者数	256人	480人	896人



## 8. イノベーション・創業教育プログラム構想(令和2年度開始)に向けた整備

地域ベンチャー創成支援財団の支援による、グローバル創業精神を持って地域貢献を考える「イノベーション・創業教育プログラム」実施に向けて、最終の調整を行っている。

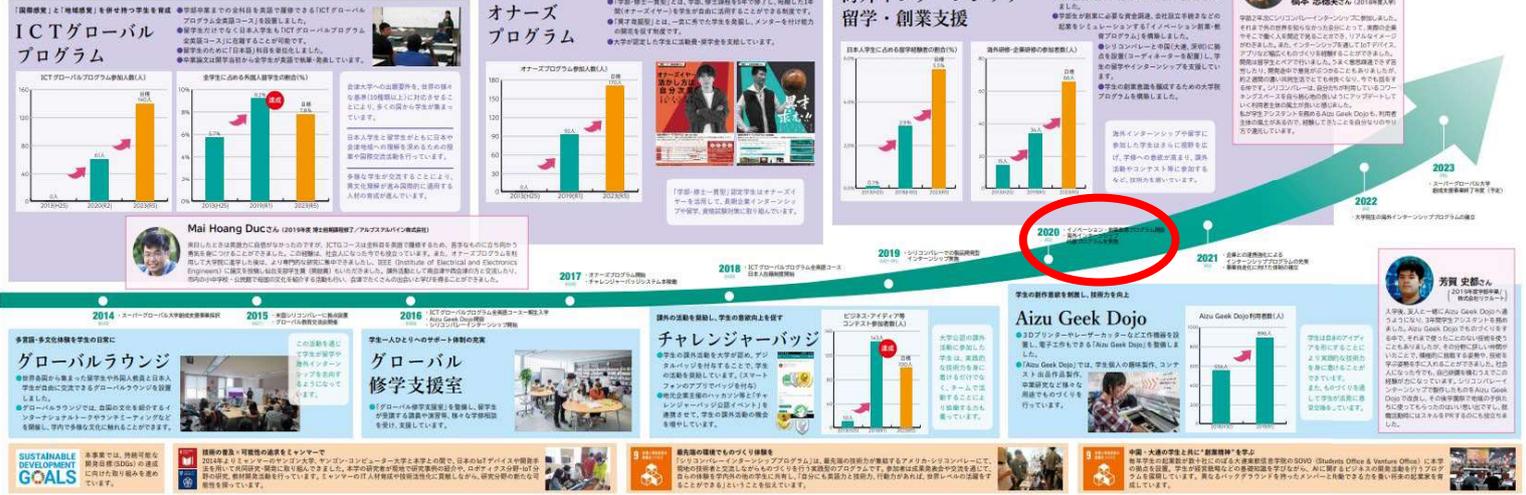
# 8. 取組内容の進捗状況(令和2年度)

【会津大学】

会津大学

## スーパーグローバル大学創成支援事業のあゆみ

本学の文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業」に採択された2014年度から、現在までの取り組みとその成果についてご紹介します。



## ■ 共通の成果指標と達成目標 国際化関連、教育改革関連

### 1. ICTグローバルプログラム全英語コース(学部ICTGコース)

外国人留学生の数の増加および多国籍化が進んだことにより、日本人学生との交流の機会が増え、キャンパスのグローバル化をより一層促進した。

### ■ 出願者数および出願者の国・地域が増加(1年次入学者募集)

出願者数および入学者数が増加し、成績優秀者を獲得することにつながった。

#### ○ 対面での募集活動に代わる新たな取り組み

- ・オンラインによるフェア参加(9種類、延べ11回参加)
- ・リクルーティングサイト経由及びその他の問合せに随時対応 (Emailなどから約170人, Keystoneから232人)

#### ○ ICTG一般入試を年2回に変更、および出願要件を拡充

- ・2021年度ICTGコース一般選抜を経て13名が2021年10月1日に入学予定。
- ・ICTGコース在籍者数は、69人(留学生39人、日本人30人、令和3年3月現在)となった。
- ・ICTGコースの編入時期と編入協定校の増加により、優秀な編入生を確保することができた。

### ■ ICTGコース日本人在籍学生の英語力が向上

## 2. 海外派遣の充実

### ■ 代替プログラムとオンラインプログラムを実施

代替プログラムとオンラインプログラムを用意し、目的別に17のプログラムができた。オンラインツールを用いることにより、コロナ禍でも学生は多文化体験と英語力向上、およびグローバル創業精神を体得できた。

#### ○ 海外インターンシップ代替プログラム

- ・シリコンバレー(6人): 技術開発研修。学内とオンラインで開発研修を実施。オンラインではシリコンバレー在住のエンジニア達との技術交流を実施。
- ・大連(9人): オンライン中心の研修を実施。参加学生は東軟情報学院(協定大学)より単位を取得し、本学の課外活動コースの単位として認定された。

#### ○ 海外留学代替プログラム

- ・留学準備のための英語体験プログラムとして実施した。(26人): 福島県天栄村にある、英国を再現した施設において、英語漬けのプログラムに参加した。参加者は、TOEIC Speakingスコアの上昇が認められた。

#### ○ 海外留学オンラインプログラム

- ・中国・大連 夏期短期留学プログラム(協定大学、4人): 中国語を学び、中国の「今」を学んだ。
- ・オストバイエルン・レーゲンスブルク応用科学大学(協定大学、10人): オンライン授業の履修を通じて、専門分野の学修・研究に取り組んだ。

〈ICTGコース在籍者数推移〉

	2016	2017	2018	2019	2020
1年生	4人	9人	7人	2人	12人
2年生	0人	4人	9人	16人	20人
3年生	7人	7人	9人	16人	20人
4年生	0人	7人	7人	9人	17人
合計	11人	27人	32人	43人	69人



〈日本人在籍者のTOEICスコアの変化〉



〈留学準備のための英語体験プログラム〉



〈海外インターンシップ代替プログラム〉

### 3. キャンパスのグローバル化と多文化環境の充実:国際交流活動のオンライン化

#### ■ オンラインツールを用いてグローバルラウンジ活動を継続的に実施

コロナ禍であってもオンラインツールを用いて定期的に英語によるインターナショナルトークやLunch Breakを行い、学生が自宅からでも英語に触れられるようにした。学生の英語学修のモチベーションを保つことができた。

ICTGコースの留学生在がホストとなりオンラインツールを用いたEEE-Chatを実施。ここでは、英語科目の教員を招待し、日本人学生の英語力向上につながった。

〈国際交流活動等の参加者数推移〉	2018	2019	2020
グローバルラウンジ利用者数	600人	1,509人	-*
インターナショナルトーク参加者数	30人	115人	414人
Lunch Break (留學生との交流会)	-	-	135人
EEE-Chat参加者数	-	-	171人

\* グローバルラウンジは、コロナの影響により閉室。

### ガバナンス改革関連

#### 4. 自走化に向けた取組みが進展

自走化に向けて、3件の外部資金獲得実績を作った。外部資金を活用して、グローバル創業教育を包含するイノベーション・創業教育プログラム(ISEP)とシリコンバレーインターンシップ代替プログラムを実施した。

### ■ 大学独自の成果指標と達成目標

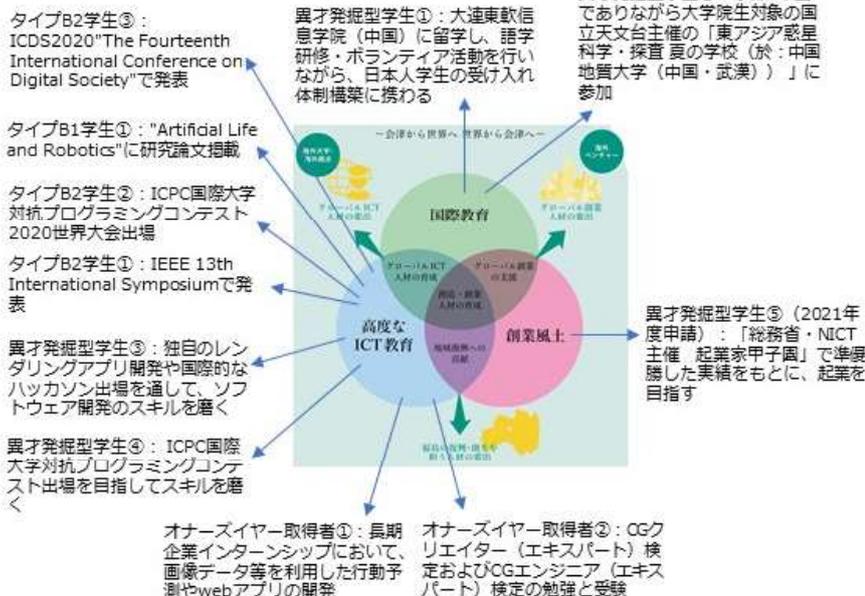
#### 5. オナーズプログラム

##### ■ オナーズプログラムの制度が、学生の勉学励行や自己の目標達成に向けた活動の動機づけに

オナーズ一貫型候補者に認定された学生の数が増加。→2020年度は、オナーズプログラム一貫型認定学生11名が大学院に進学。→優秀な成績を修めて大学院進学を目指す学生が増えた。

異才発掘型の学部学生1名とオナーズイヤーを取得した一貫型の大学院生1名に対し、オナーズ活動費を支給した。

〈オナーズプログラム参加者数〉	2018	2019	2020
学部・修士一貫型候補者 合計	16人	41人	71人
学部・修士一貫型認定者 合計	40人	40人	37人
タイプA (学部4年+修士1年)	13人	8人	11人
タイプB1 (学部3年+修士2年)	10人	14人	10人
タイプB2 (学部3年+修士2年)	17人	18人	16人
異才発掘型認定者 合計	6人	11人	11人



### ■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

#### 6. 本学のSGU事業成果を可視化

##### ■ 本学SGU事業のWebサイトを改修し、2020年12月に公開

2020年度までの事業の整備状況、取り組みの成果、学生の成長の様子がわかるようページを再構成し、記事情報の最新化を行った。また、最新のアクセス解析機能と連携させ、数値データをもとにしたより効果的な情報更新・発信ができるようになった。

入学志願者層(18-35歳が全体の約6割を占める)および海外からのアクセス数(中国・米国・インド・インドネシア・英国・マレーシア・ベトナム・バングラデシュ)が多い。特にICTGコースの特色やインターンシッププログラムのお知らせ、事業の進捗状況等のページへのアクセスが高い。



<SGU HP 更新>

##### ■ 成果を記した「SGU事業紹介リーフレット」を製作、関係各所に配布

リーフレットを受け取った会津若松市内の企業より、奨学寄附金の申し出があった。



#### 7. 「会津大学イノベーション・創業教育プログラム」(ISEP)を開始

地域・国内・海外の3段階インターンシッププログラムや海外事業開発プロジェクトを含む創業精神育成に係る各事業を統合し再編、グローバル創業精神を体得した学生が本学の産学イノベーションセンター及び地域ベンチャー創成支援財団の支援を受けて地域で起業する仕組みを確立した。2020年度参加者は14人。

2020年度から新規に地域ベンチャー創成支援財団の寄付講座である「ICTベンチャー起業と経営」を開講。履修者は65人。



#### 8. 「THE世界大学ランキング日本版2021」で本学が24位にランクイン

THEによる国際的な評価により、本学の認知度が向上した。

「SGU事業紹介リーフレット」

## 9. 取組内容の進捗状況(令和3年度)

### ■ 共通の成果指標と達成目

#### 国際化関連、教育改革関連

#### 1. 学生の語学レベルの測定・把握・向上のための取組

外部有識者からの助言も踏まえ、2021年7月から本学語学研究センターが中心となり、全学的な学生の英語力向上の強化・促進をしてきた。

- 令和5年の本学の最終目標は、500点以上獲得した学部生の割合が50%
- 2021年度目標であるTOEIC450点以上を満たす学部生の割合:(2021年4月) 49.9% → (2022年3月) 62.7%↑
- TOEIC700点以上の学部生が11.0%, TOEIC600点以上の学部生が20.6%となった。(2022年3月)

- ① 学生個別ガイダンス: 学生に個別ガイダンスパーソン(教職員)を配置し、定期的に面談をするなど英語学習の伴走者役としての活動を行った。
- ② TOEICアドバイザー: TOEIC対策の学習方法等のアドバイスを実施。TOEIC直前対策講座(集中講座、3回)を実施した。
- ③ Go Beyond 500! Campaign: TOEIC500点以上を取得した学生には、得点に応じた色のキーホルダー(図1)を配布。また、クラス別のTOEIC500点達成率を学内に掲示した。
- ④ TOEIC対策書籍(300冊余)を大学図書館で開架し、TOEIC対策コーナーを開設した。(図2)
- ⑤ 2022年度以降の英語カリキュラムの変更:
  - 1)英語選択科目(23科目)で、TOEICオンラインの受験を必須化。
  - 2)TOEIC750点を獲得した学生は英語選択科目の単位認定を申請できる(1単位)。
  - 3)TOEIC650点以上を獲得している2年生までの学生は、英語選択科目の早期履修を申請できる。
  - 4)1年次科目のIntroductory English 1~4の学修内容を再設計し、時限毎に30分間4技能を練習する時間を設けるようにした(タスクベース教授法による)。
- ⑥ 2022年度入学者に対しTOEIC対策図書を購入、配布し(外部資金利用)、英語学習を促すと共に、推薦入学者に対しては入学前の課題を課した。

#### 2. 外国語のみで卒業できるコース(学部ICTグローバルプログラム全英語(ICTG)コース)の在籍者数

➢ ICTGコース在籍者数は88名(留学生41名、日本人47名)(2022年3月31日現在)(図3)  
2019年度から開始したICTGコース日本人在籍制度の学内認知度が向上し、英語で専門科目を履修する学生が増えており、グローバルに活躍できる学生の育成につながっている。

- ① ポスター掲示やメール送信等により、在籍方法やルールを丁寧に周知した。
- ② ICTGコースに在籍した日本人学生はTOEICスコアが上昇した(平均値: 在籍前551点→在籍後627点)。
- ③ ICTGコースの授業を体験する機会を年2回設けた(参加者19名のうち13名がICTGコースに登録)。これにより日本人在籍希望者が増えた。

#### ➢ ICTGコース在籍者の多様性拡大

2021年度ICTGコース入学者の国籍・地域は10か国・地域となった。(2020年度8か国・地域)

#### 3. 教育の質保証

##### ➢ CC2020(Computing Curricula 2020)への対応

目標とする人材像のコンピテンシー設定および各科目のスキルレベル設定を、2023年度適用を目指している。適用後は、本学の教育への信頼性が堅固となり、学生、社会の期待に応えられる大学へと成長を続けていくように基盤整備が推進されている。

#### 4. 日本人学生に占める留学経験者数(図4)

コロナ渦のためオンラインツールを用いての代替プログラム実施であったにもかかわらず、海外派遣プログラムを経験した学生は、グローバルラウンジにおいて国際交流活動の中心役として活動するなど、国際交流を活性化させる牽引役となっている。また、身に付けた英語力と専門技術を活かしてグローバル企業への就職や企業との共同研究や、起業や創業イベントでの登壇などで、活躍をしている。

英国の建物を再現した施設「ブリティッシュヒルズ(福島県天栄村)」において、2020年度に短期留学プログラムの代替として実施した宿泊型研修の参加者満足度が高かったことから、2021年度は、夏季の国内研修「留学準備のための英語体験プログラム」を新設し、実施した(参加者18名)。(図5)



次の TOEIC IP 12月18日(土)  
申込締切 12月2日(木)



(図1) 学生のTOEIC受験後の感想を掲載したポスター



(図2) TOEIC対策コーナーを開設した大学図書館



	実渡航	オンラインA	オンラインB	ハイブリッド
学部	0	27	0	0
大学院	0	0	0	0

(図4) 日本人学生に占める留学経験者数

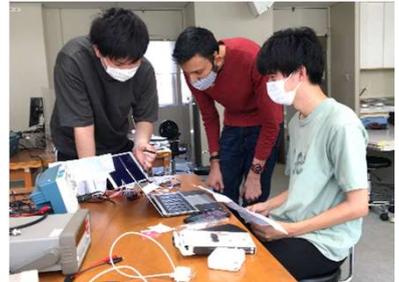


(図5) ブリティッシュヒルズにて行われた「留学準備のための英語体験プログラム」

- ① 海外短期派遣の代替プログラムとして、冬季に「留学準備のための英語体験プログラム」を実施した（参加者25名）。
- ② British Hillsでの研修後にアメリカのローズハルマン工科大学(協定校)の学生や教員に対し、オンラインで日本の文化を紹介した。(図6)
- ③ シリコンバレーインターンシップ代替プログラム(参加者数7名(うち留学生4名))、オンラインでNVIDIA Jetson Nano や Arduino に関する技術研修、試作品の発表、及びシリコンバレーエンジニアとの交流、資金獲得等の授業を英語で行った。(図7)
- ④ ベトナムインターンシップ代替プログラム(参加者2名)、ベトナム企業のオンラインインターンシップに3週間参加した。
- ⑤ 大連インターンシップ代替プログラム(参加者2名)において、オンラインで中国のICTビジネス事情とマーケティングリサーチに関する研修を行った。
- ⑥ 大連東軟信息学院 夏期短期オンライン語学留学プログラム(1名、中国、協定校、2週間)、オストバイエルン・レーゲンスブルク工科大学オンラインプログラム(3名、うち留学生2名、ドイツ、協定校、4か月間)



(図6) ローズハルマン工科大学の学生とのオンライン文化交流



(図7) シリコンバレーインターンシップ代替プログラム

## ガバナンス改革関連

### 5. 自走化及び外部資金の獲得

- 自立化推進委員会を定期的に開催し、自走化時のさまざまな要素を考慮しながら体制整備への取組を進めた。
- コロナ禍の影響があったにもかかわらず、前年度比104%の奨学寄附金を獲得できた。寄附団体数は前年度より2団体増えた。
- 学生の英語力向上やAizu Geek Dojo (AGD) (7. 参照) 移設・拡張の活動に対して外部団体からの理解が得られ、追加費用の寄付により実現した。

- ① 2024年度SGU事業自立化に向けた2年間のアクションプランを作成した。
- ② 外部団体からの奨学寄附金を活用し(7,600千円)、より広く開放的なスペースに移転することを2021年8月に決定した。AGD移設・拡張のための工事を開始した(2022年2月〜)。2022年夏ごろに新AGDが開所する予定である。民間企業や外部団体、海外拠点等と連携しながら様々なイベント等を通して学生の技術力・企画力・発信力を高めていく。
- ③ 寄附講座(専門科目「ICTベンチャー起業と経営」、ISEP認定研修「ICT創業トリアル」)、および奨学寄附に絡むイベント等を実施した。
- ④ 奨学寄附金を用いて2022年度新入生向けTOEIC書籍購入および在学生のTOEIC受験費用補助を行った。



(図8) イノベーション・創業教育プログラム(ISEP)の修了生

## ■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

### 6. イノベーション・創業教育プログラム(ISEP)

- 在籍者が着実に増加。プログラム在籍者27名、うち修了者1名(図8)。(2020年度在籍者14名)

- ① 専門科目「ICTベンチャー起業と経営」(履修者40名)、2021年度新設ISEP認定プログラム「ICT創業トリアル」(履修者10名)
- ② シリコンバレーインターンシッププログラムに参加した学生が大学発ベンチャー企業を設立、ISEP在籍者と共同で事業を開始した。
- ③ 「東北グロースアクセラレーター」にISEP在籍学生チームが採択された。(図9)



(図9) 「東北グロースアクセラレーター」に採択されたISEP在籍学生チーム

### 7. ものづくりのワーキングスペース Aizu Geek Dojo (AGD)

- AGDのイベント参加をきっかけに多数の学生が開発活動を継続

AGDの利用学生は、開発イベントでの受賞や、学内システムの開発リーダーを務める、企業との共同開発・研究、個人事業主として創業イベントでの登壇、起業、グローバル企業への就職など、学生の中心的存在として活動をしている。

## ■ 大学独自の成果指標と達成目標

### 8. オナーズプログラム

- プログラム認定学生は自己の目標に向かって活動しており、学生のモデルとなっている。

<学部・修士一貫型>

2021年度にオナーズイヤーを取得した学生は1名であったが、3名の学生から留学や会社経営(図10)等のため2022年度オナーズイヤー取得申請があり、申請が承認された。

<異才発掘型>

突出したスキルをもつ学生4名(1年生1名、2年生3名)を認定した。

突出したスキルを持った学生が会津大学を希望して入学し、認定者となり育成されている。



(図10) 起業についての記事が掲載されたオナーズプログラム認定学生(2022/4/18 福島民報)